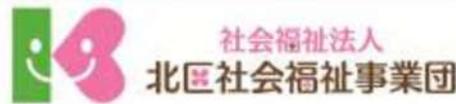


# アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



社会福祉法人 北区社会福祉事業団  
特別養護老人ホーム上中里つつじ荘

# 本日お話しする内容

---

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

# 施設概要

運営法人	社会福祉法人北区社会福祉事業団
施設名	特別養護老人ホーム上中里つつじ荘
所在地	北区上中里2-45-2
定員	130名（ショートステイ10名）
平均介護度	3.87
職員数	74名
特徴	<ul style="list-style-type: none"><li>・特別養護老人ホームと高齢者在宅サービスセンターが併設されており、様々なニーズに対応できる複合施設です。</li><li>・施設内は広く開放的で、リハビリ歩行にも適しており、個別ケアを重視したサービスを提供しています</li></ul>



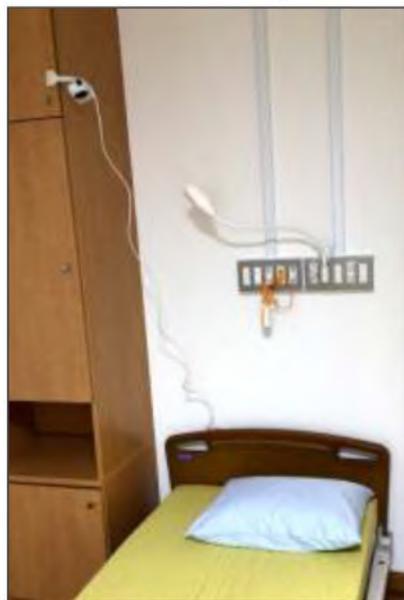
# 導入した次世代介護機器

メーカー名	機種名	台数
パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN (NN-1530)	130台 (ショートステイ 10台)
パラマウントベッド株式会社	眠りSCAN eye	12台

眠りSCAN



眠りSCAN eye



ベッド上の利用者様の状態を、端末でリアルタイムに一覧表示



# 導入の手順

## 導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 情報収集</li><li>● 取組に対する組織全体での合意形成</li><li>● 実施体制の整備</li></ul>
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 課題の見える化</li></ul>
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 導入計画づくり</li><li>● 対象利用者の選定</li></ul>
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 導入準備</li><li>● 次世代介護機器の活用</li><li>● 小さな成功事例</li></ul>
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 効果検証</li><li>● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析</li></ul>
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none"><li>● 実行計画の練り直し</li></ul>

**取組期間：**  
約24カ月  
令和5年10月～令和7年10月

**取組実施者：**  
約12名

**職種：**  
介護  
看護  
相談員  
機能訓練  
事務

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

# 手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間：令和5年 10月～令和6年 3月

手順  
1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

## ● 実施体制の整備

**DXPT**（デジタルトランスフォーメーションプロジェクトチーム）が中心となり推進

NO	役職	チーム内での役割
1	庶務課長	メーカーの交渉・事務手続き
2	専門職	チームサブリーダー
3	係長	機器の施設マネジメント・普及促進
4	介護主任	機器使用の入居者選定
5	介護職員（プロジェクトメンバー）	機器使用方法普及促進
6	生活相談員	倫理面担当（家族説明）
7	庶務課職員	情報システム機器導入

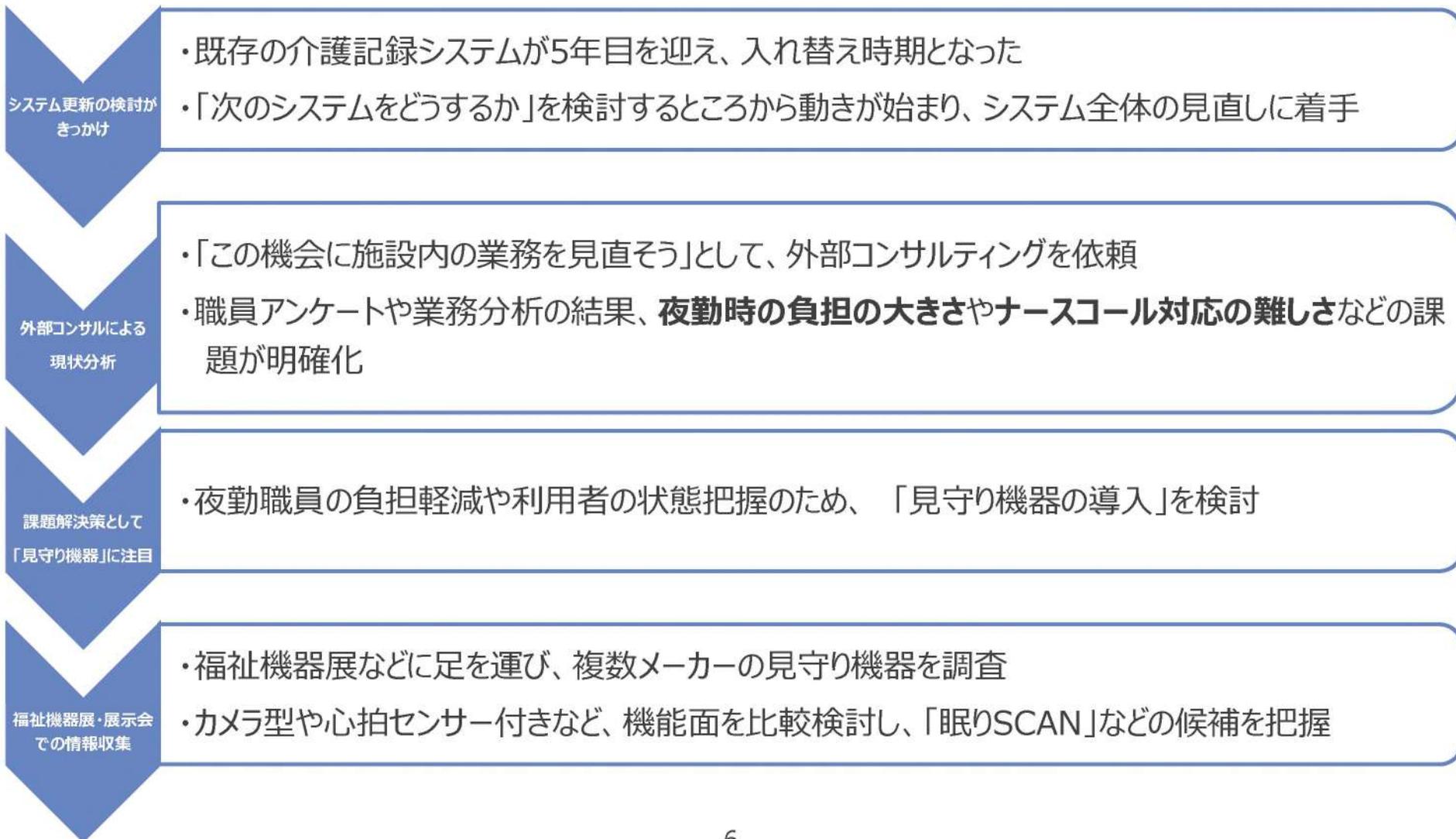
# 手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間：令和5年 10月～令和6年 3月

## 手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

### ● 見守り機器導入のきっかけ・情報収集



# 手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

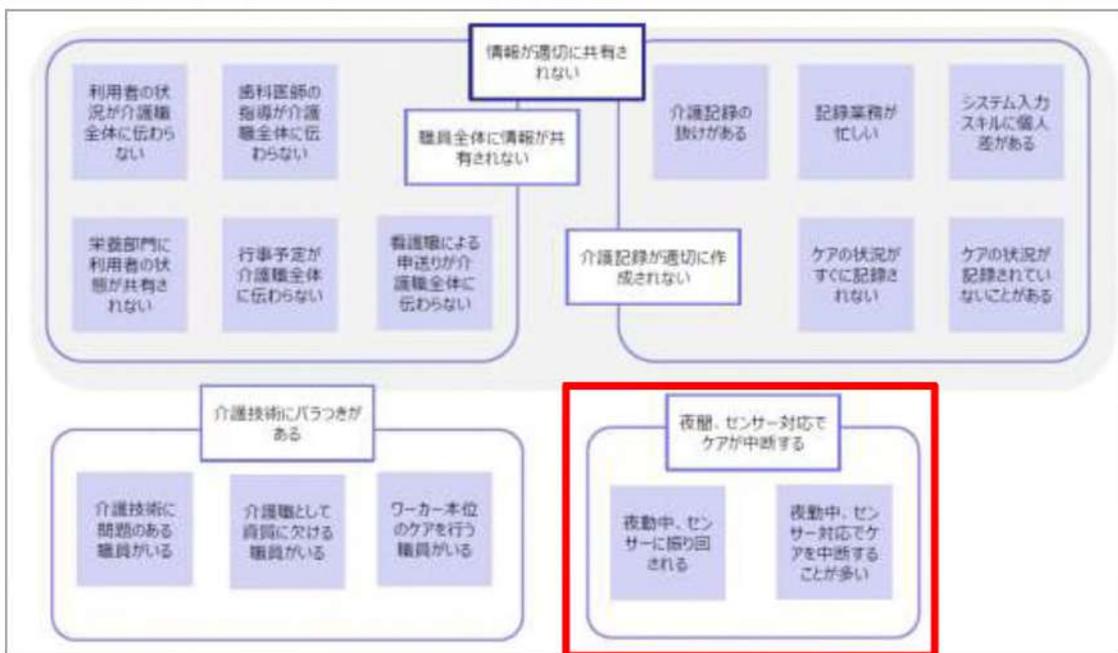
取組期間 : 令和5年 10月~令和5年 12月

手順  
2

- 課題の見える化

- アンケート、現場観察を通じて、夜勤時のどこに負担が集中しているかを分析

職員インタビュー結果:課題のグルーピング



夜勤に関する主な課題

## 原因

- センサーコールやナースコールに振り回される
- 夜勤帯中にセンサー発報に伴う対応が頻発
- 2時間おきの巡視

## 結果

- 利用者へのケアや事務作業が中断
- 職員の精神的、肉体的な負担増

## 悪影響

- ケアが必要な人へ対応する時間がとれない
- 転倒事故のリスクが高まる

# 手順 1 : 改善活動の準備をしよう

## 手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

取組期間：令和5年 10月～令和6年 3月

## ●組織全体での合意形成

### 導入効果の検討

- 夜勤負担軽減（不要な訪室の頻度を抑える、効果的なトイレ誘導、排泄介助）
- データによる可視化、共通認識の促進
- 単なる効率化ではなく、ケアの時間を最大化
- 補助金活用による費用負担の軽減

### 導入の決め手

- 「眠りSCAN」が新しい介護システムと連携可能
- データに基づいたケアが行える

### まとめ

- 「眠りSCAN」導入は、単独の施策としてではなく、介護記録システム刷新をきっかけに始まった業務改善の一環
- 外部コンサルティングによる分析で夜勤負担などの課題が浮き彫りになり、機器導入を検討
- 最終的にはシステム連携が決め手となり導入が決定

# 手順 3 : 実行計画を立てよう

## 手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

取組期間：令和6年 4月～令和6年 8月

### ● 導入計画づくり

課題解決に向けた道筋

- ・介護記録との連携によるデータに基づいたケアの実施
- ・睡眠状態をリアルタイムで把握し、不要な訪室の頻度を抑え、効果的なトイレ誘導、排泄介助



- ・「経験や勘」に依存しない正確なデータに基づいた判断



- ・入居者の安眠
- ・職員の負担軽減

# 手順 3：実行計画を立てよう

取組期間：令和6年 4月～令和6年 8月

## 手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

### ● 導入計画づくり

#### 成果指標

1. 職員の導入前後の夜間帯の歩数比較
2. 入居者様の睡眠状態を数値で比較
3. アンケートによる職員の身体的・精神的な負担の変化

# 手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間：令和6年 9月～令和7年 3月

## 手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

### ● 対象利用者の選定

#### ■ 選定した利用者と選定理由

##### ● 眠りSCAN :

- ・一部の利用者様だけに導入しただけでは、効果が少ないと考え全利用者を対象

##### ● 眠りSCAN eye(カメラ) :

- ・行動に規則性がなく、転倒や転落リスクの高い方
- ・新規利用者
- ・夜間の状態把握が必要な方

#### ■ 利用者の状態と環境への配慮

- ・プライバシーや精神面への影響を考慮
- ・新規入居者
- ・夜間の状態把握が必要な方

# 手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：令和6年 4月～令和7年 2月

## 手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

### ● 導入準備

#### ■ 実施内容

##### 1. 通信環境の整備

既存のWi-Fi環境で眠りSCANが稼働するかを調査

- 電波強度に問題があり、廊下に設置されていた  
アクセスポイントを居室内に移設

##### 2. 本格導入前のデモンストレーション

「眠りスキャン」機器のデモ機を1か月間貸与してもらい、現場で試験利用。

- メーカーによる説明だけでなく、職員が見て触れて、  
使用感や効果を確認

##### 3. 外部コンサルタントの支援

機器の使い方を現場に定着させるための後押し

<居室内に移設されたアクセスポイント>



# 手順 4 : 改善活動に取り組もう

取組期間：令和6年 4月～令和7年 2月

## 手順 4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

### ● 次世代機器の活用

#### ■ 実施内容

#### 効果的に活用するコツ

##### 導入時の「初期設定」を徹底する

利用者様の身長や体重などのデータをあまり気にせず、設置していたところ、誤報が多くなってしまったので、最初の設定はちゃんとやった方が良い。

# 手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：令和7年 3月～令和7年 10月

## 手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

### ● 小さな成功事例の共有

#### ■ 職員の声

夜間帯、入居者の覚醒状況を確認し、訪室。入居者がもぞもぞしていたため、声掛けし、タイミングよくトイレ誘導できた

コールなどの発報が、重なっても端末で、利用者の状況が分かるので、焦ることが減った

#### ■ 利用者の様子、変化

起床時、画面の覚醒状態をみて声かけすると、スムーズに起きてくれた

#### ■ 成功事例の共有方法

それぞれの朝夕の申し送りの際に、伝達し、共有している

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間：令和7年 4月～5月

手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 設定した成果指標における効果検証

### ① 導入前後の夜間帯の歩数比較



## 効果

導入後夜間帯の歩数は緩やかに減少。

訪室回数や物音に対する対応が軽減されたことが要因と考えられる。

結果として、職員の身体的・精神的負担が減り、より安心して業務に取り組めるようになっている。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間：令和7年 4月～10月

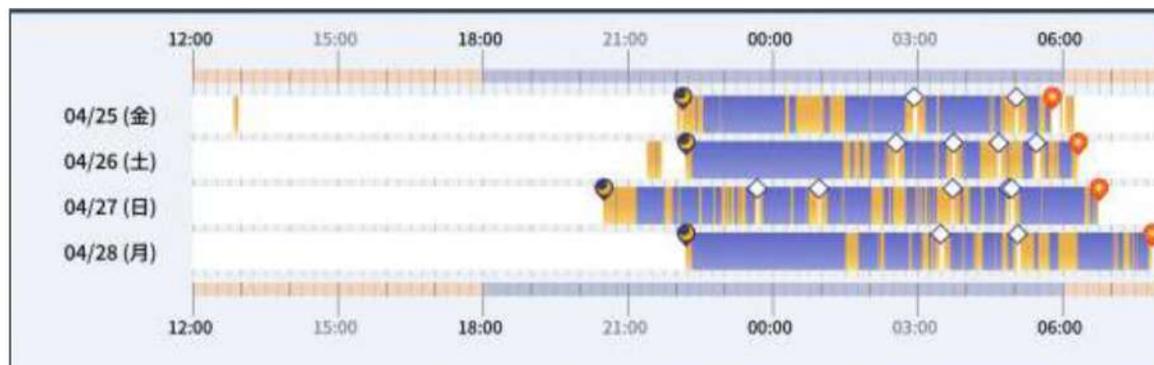
手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

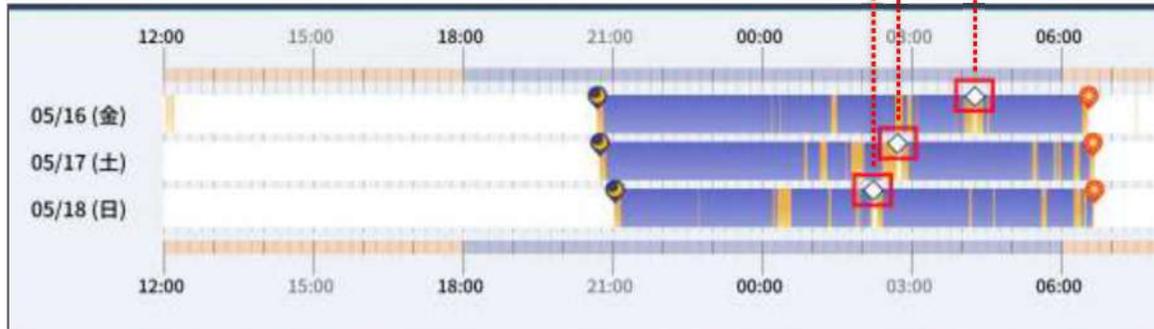
## ● 設定した成果指標における効果検証

### ② 入居者様の睡眠状態を数値で比較

#### <通知機能の**利用前**>



#### <通知機能の**利用後**>



## 効果

睡眠日記の記録から、トイレ誘導後  
(◇の部分) の寝つきが改善している  
ことが確認された。

これは、眠りSCANの通知をもとに、利  
用者が覚醒しているタイミングでトイレ  
誘導を行うようになったことによる効果  
である。

適切なタイミングでの対応により、利用  
者のスムーズな再入眠と十分な睡眠  
時間の確保につながっている。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間：令和7年 4月～10月

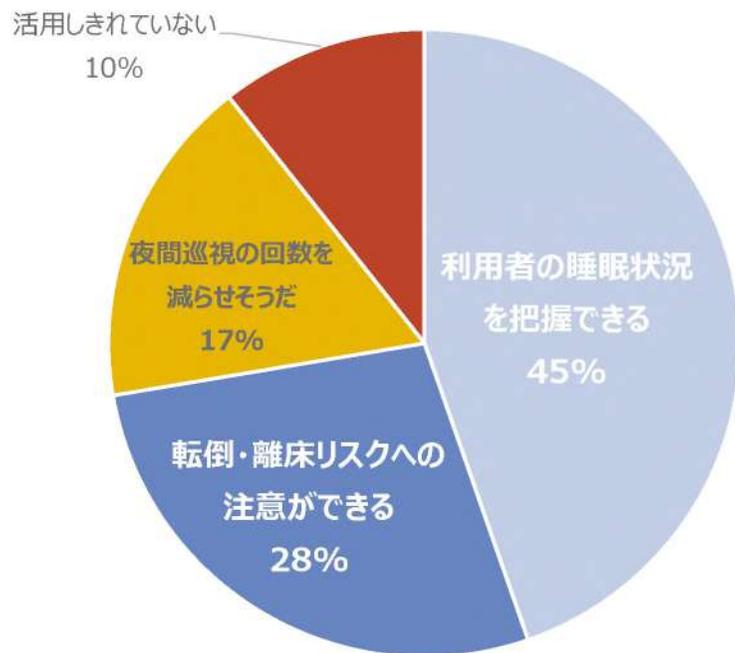
手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ● 設定した成果指標における効果検証

### ③アンケートでの職員の身体的・精神的な負担の変化

眠りスキャンを使用してみて、業務上どのようなメリットを感じましたか？  
(複数選択可)



## 効果

・90%の職員が導入効果を感じている

### <職員の意見>

- ・巡視が減ることが直接業務削減に繋がるとは思えない。
- ・眠りスキャンの情報にも誤差があるため、目で見て判断することは変えない方が良いと思う。
- ・大まかなバイタル変化や起き上がり検知などには上手く活用できている
- ・睡眠状況の把握から精神科薬の調整などにもっと積極的に繋がれたらと感じる。

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間：令和7年 4月～10月

手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ■ 上手くいったこと

一番大きいのは利用者の睡眠状態を「見える化」できるようになり、職員の業務や精神的不安感を軽減できたこと。これによって、何が変わったか。

### 1. 利用者さんの安眠が守られるようになりました

データに基づいて、その方の状態に合わせたケアができるようになり、夜中の不要な訪室や、無理に起こしてしまうような声かけがグッと減ったんです。

### 2. 職員の負担が大きく減りました

無駄な動きや、必要のない確認が減ることで、職員の皆さんの業務負担も同時に軽くなりました。

### 3. ケアの質が向上しました

得られたデータは、職員同士の情報共有や、利用者さんへの対応を決める際の重要な判断材料になっています。このデータがあることで、より根拠のある、質の高いケアにつながっています。

**こうした小さな改善の積み重ねが、結果的に「働きやすい職場づくり」や、ひいては「施設全体の信頼性向上」にもつながると、私たちは強く感じています。**

# 手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間：令和7年 4月～10月

手順  
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

## ■ 上手くいかなかったこと

### 1. ネットワーク環境の構築遅延

介護記録システムの入替えもあり、ネットワーク環境の大幅な刷新が必要となったが、既存のネットワーク機器が機器ごとに業者が分かれていたこともあり、ネットワーク設計がなかなか進まず、当初予定から遅延した。

### 2. 他ICT機器との同時導入による混乱

当施設は、同時期に介護記録システムの変更やインカムなどの導入を一気に進めたため、特に年齢層の高い現場職員が、使用方法などについて混乱する様子があった。

# 手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間：令和7年 4月～9月

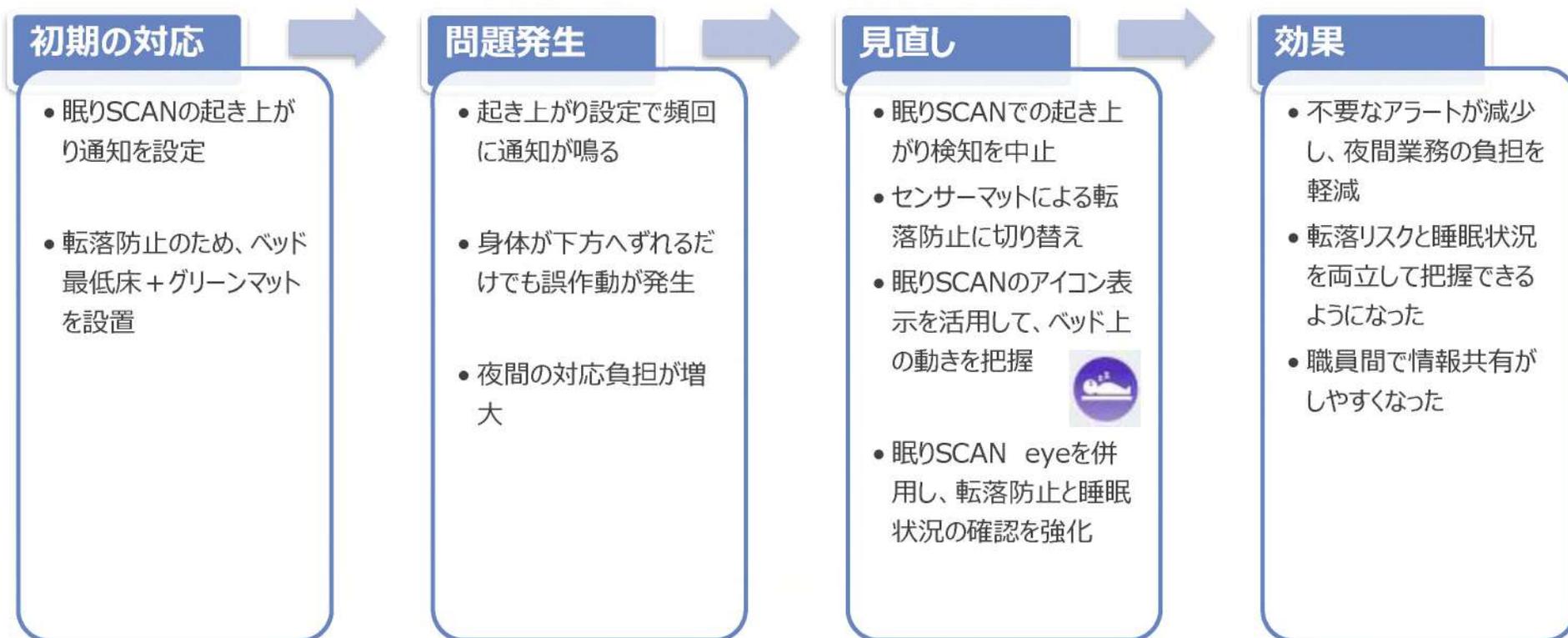
手順  
6

- 実行計画の練り直し

## ● 取組(全体)を通して見直したこと

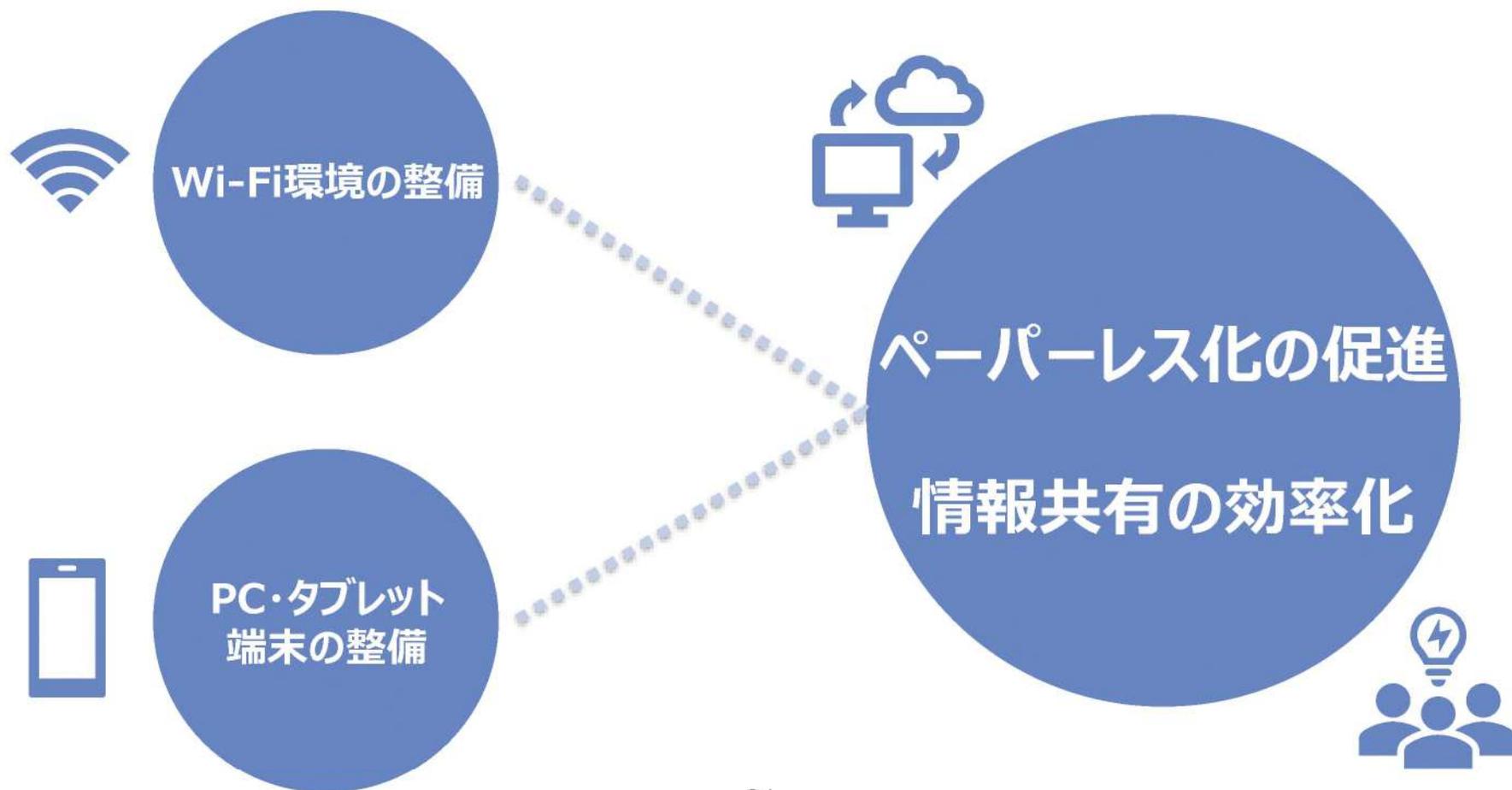
### 「夜間転落防止に向けた眠りSCAN活用の見直し」

事例) 「夜間にベッドから尻ばいで出てきてしまう」という事前情報があった利用者様への対応



## 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

- プロジェクトがもたらした「思わぬ副産物」  
**施設全体のDX化を加速**



## 次世代機器導入を考えている事業者の方へ伝えたいこと

---

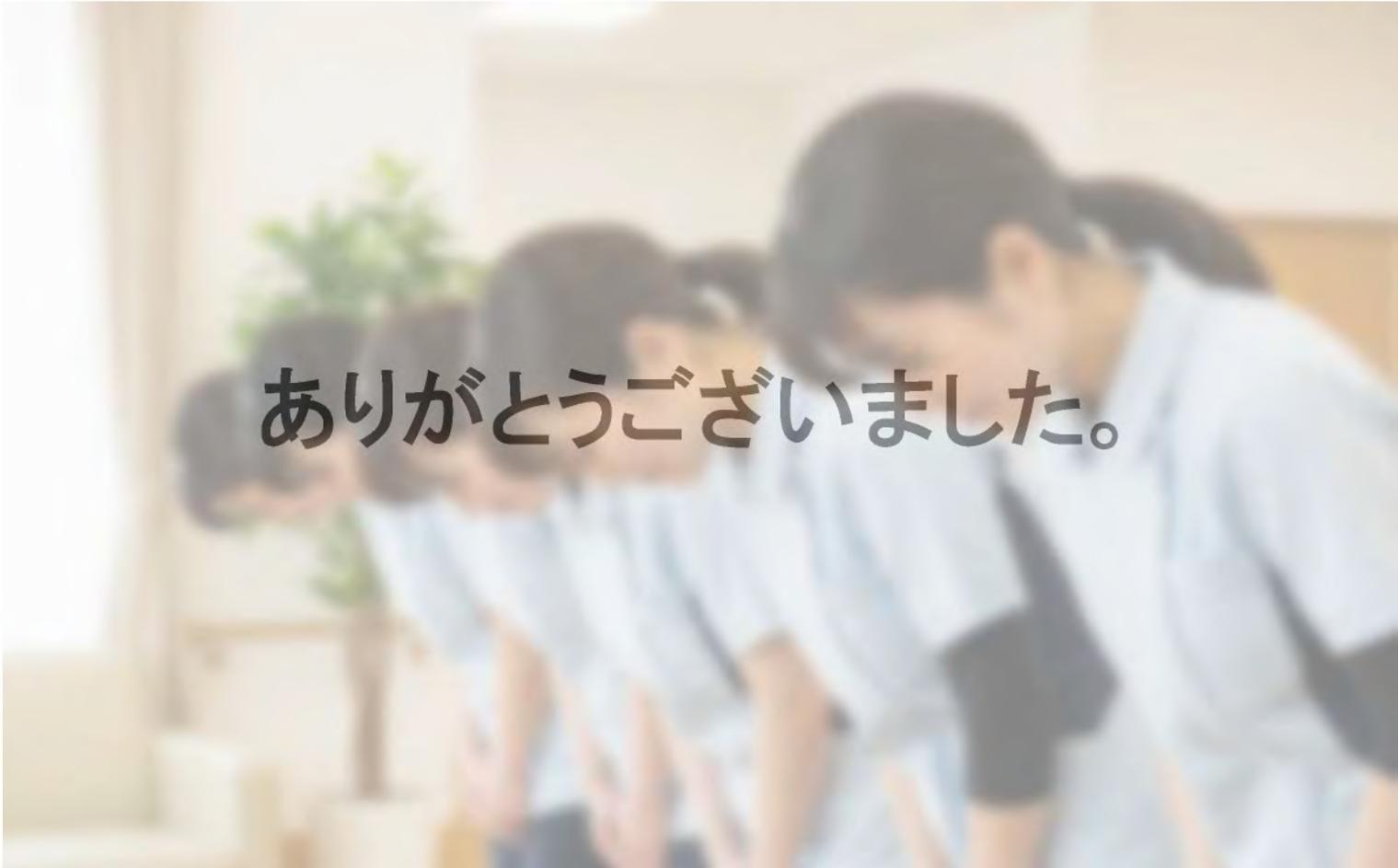
**人口減少社会の中で、介護職員は増えません  
今いる職員を想い、どうしたら負荷を減らせるか**

**入居者の良い顔をひきだせるか**

**Try & Errorを繰り返して**

**一緒に見つけていきましょう**

---

A group of people, likely staff or students, are shown in a room, all wearing light blue short-sleeved shirts. They are captured in the middle of a bow, with their heads and upper bodies tilted downwards. The background is slightly blurred, showing a window with a plant and some furniture. The overall atmosphere is one of respect and gratitude.

ありがとうございました。